

●冬期据付時の注意点

もくじ

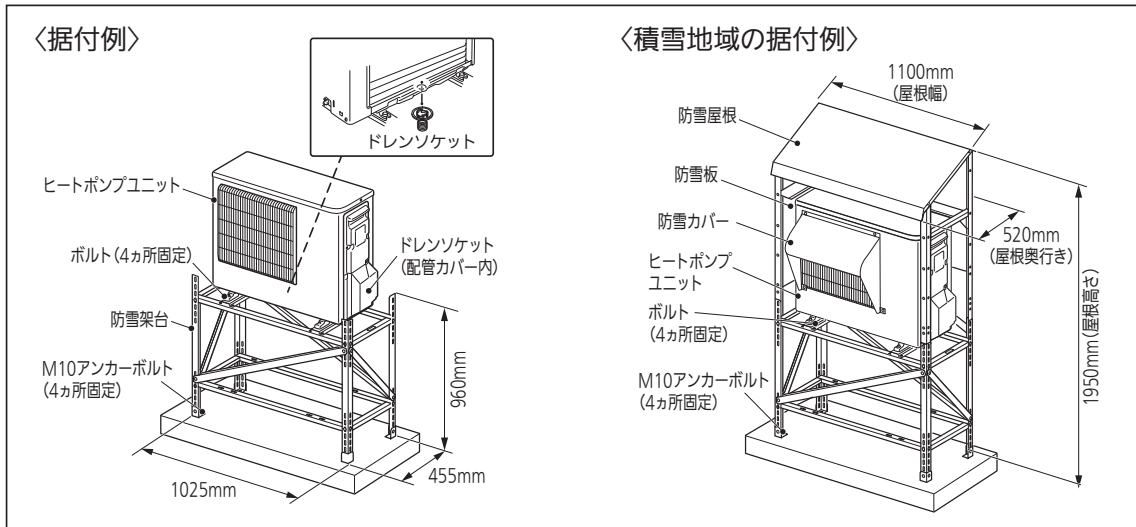
- 1.ヒートポンプユニットの据付のお願い
- 2.凍結防止工事のお願い
- 3.保温工事のお願い
- 4.施工後すぐにお客様へ引き渡さない場合のお願い

1.ヒートポンプユニットの据付

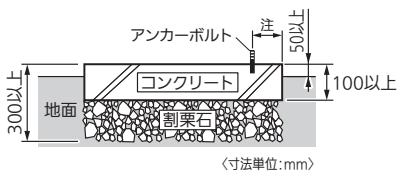
- 必ず防雪架台を使用し、水平に設置してください。積雪地域では防雪カバー、防雪屋根、防雪板を使用してください。
- 砂利や土の上など、ドレン水を排水できる場所に基礎工事をしてください。(下記参照)
- 犬走り等、住宅の基礎と一体の場所に設置する場合は下記にしたがってください。

※アンカーボルトの中心と基礎辺部との距離は、アンカーボルト埋込み深さの2倍以上としてください。

※ドレン水が滴下し凍結するおそれがある場合は、排水口を設けてください。排水口へは適切な方法(凍結しない方法)でドレン水を導いてください。

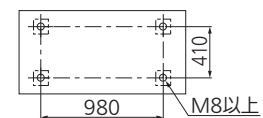


コンクリート基礎(基礎寸法:1200×600×100)



- コンクリート圧縮強度:18MPa以上
- アンカーボルト引き抜き力:3kN以上
- アンカーボルト埋込深さ
M10(GZ-B2F):40mm、M8:45mm

アンカーボルトピッチ

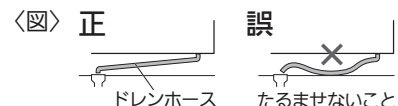


手順

- ①防雪架台を基礎に固定する(4カ所)
- ②ヒートポンプユニットの脚を防雪架台に固定する(4カ所)
- ③配管カバー内のドレンソケットを取り出し、ヒートポンプユニットのドレン口に取り付ける
〈積雪地域のみ〉
- ④防雪カバーをヒートポンプユニットに取り付ける
- ⑤防雪屋根、防雪板を防雪架台に取り付ける

お願い

- 防雪架台の組立方法、注意事項等は、架台に付属の説明書をご覧ください。
- 地震時の転倒防止のため、アンカーボルト(M8以上、推奨M10)で固定してください。
- 防雪カバーの組立方法、注意事項等は、防雪カバーに付属の説明書をご覧ください。
- 防雪架台に付属のボルト(ワッシャー付き六角ボルトM6×25)を使用してください。
- 防雪屋根、防雪板の組立方法、注意事項等は、防雪架台に付属の説明書をご覧ください。
- ドレンホースは、たるみのないように施工してください。〈右図〉
凍結による破損や水漏れの原因になります。



●冬期据付時の注意点

2.凍結防止工事

- 保温工事がしてあっても周囲温度が0℃以下になると機器内の部品や配管が凍結します。配管凍結時は、機器内の部品や配管が破損し、水漏れとなる場合があります。必ず次の凍結防止対策をしてください。凍結による機器破損の修理は、無償保証の対象外です。
- 配管接続部の水漏れ有無を点検してから凍結防止工事をしてください。

注意 **凍結防止対策をする**
(配管破損による水漏れ、やけどの原因)

(1)凍結防止ヒータを外部配管に設置する方法

凍結防止ヒータは、配管の温度を直接検出するタイプのもを使用してください。

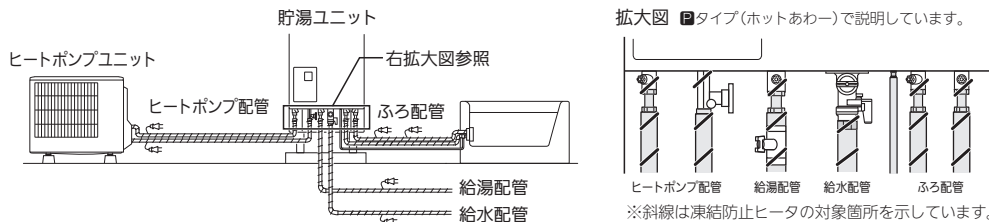
市販品の一例：東京特殊電線 NFオートヒーター(自己温度制御タイプ)
樹脂管使用時は樹脂管の材質を確認して適切な仕様のもをご使用ください。

- 外気温を検出するタイプは、温度誤検出のおそれがあります。
- 配管用の自動温度調節器(サーモスタット)のあるものを使用する場合は、確実に配管に取り付けてください。
- 凍結防止ヒータの電源接続部に水がかからないようにしてください。(火災・感電の原因)

施工方法

- 下図に示す凍結のおそれがあるすべての配管に施工してください。
- ヒートポンプ配管、給湯配管、ふろ配管は根元まで巻いてください。給水配管は、配管接続口まで巻いてください。
- 凍結防止ヒータは何本も使用します。コンセントを適当な位置に付けてください。
- 凍結防止ヒータは適切な長さのものをご使用ください。
- 凍結防止ヒータの取扱方法、操作方法をお客様に十分説明してください。
- 特定事業者と当社間で個別取り決めがなされている場合はこの限りではありません。

- 【お願い】●凍結防止ヒータは配管の種類で施工方法が異なります。
- 樹脂管の場合：樹脂管保温材(断熱材)に凍結防止ヒータを施工後、保温テープを巻いてください。
 - 銅管の場合：銅管に凍結防止ヒータを施工後、保温テープを巻いてください。



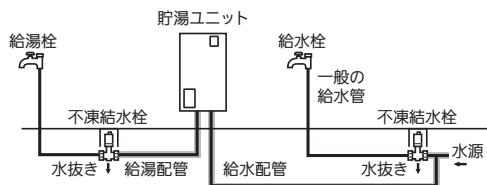
警告 **凍結防止ヒータの施工についての詳細は、凍結防止ヒータに同梱の説明書にしたがう**
(電源コードや発熱体をねじったり、折り曲げたり、重ねて巻いたり、束ねたり、密着巻きをしたり、断線させたりすると、発火・火災の原因)

(2)不凍結水栓による方法

不凍結水栓で給水、給湯配管を凍結防止する場合は、当社推奨配管システム※にしてください。

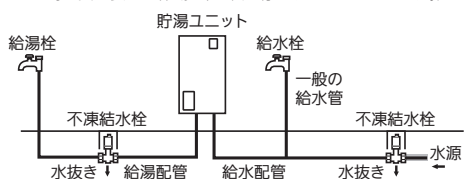
※不凍結水栓で一般の給水管の水を抜いても、貯湯タンクに水源水圧が常時加わるシステム

当社推奨配管システム



当該水道局の条例により、当社推奨配管システムができない場合
不凍結水栓は使用せず、凍結防止ヒータによる凍結防止をしてください。

水抜きの際、タンクに水圧が加わらない配管システム
(わき上げ時に安全装置が作動し、運転が停止することがあります。)



(3)施工後すぐに使用しない場合

施工後すぐに使用しない場合は、機器内の水を抜いてください。
残水があると、凍結により機器が破損することがありますので、確実に実施ください。

●冬期据付時の注意点

3.保温工事

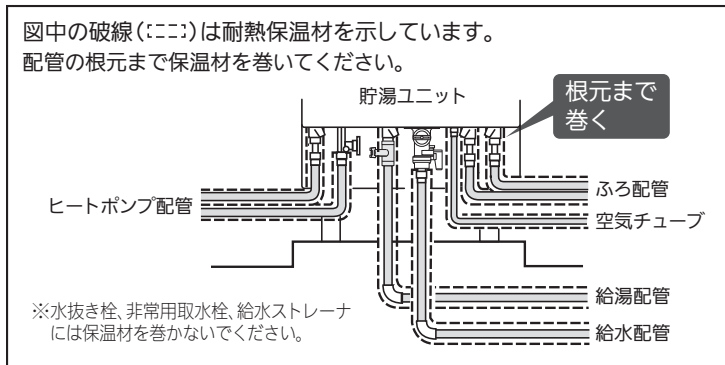
- 配管接続部の水漏れ有無を点検し、凍結防止工事をした後に保温工事をしてください。
- 全ての配管及び空気チューブは、必ず耐熱保温材による保温工事をしてください。正しく保温工事がされていないと、冬期には凍結のおそれがあります。また、配管途中の放熱により、正常にわき上げや湯はりができない場合があります。

耐熱保温材の厚み

- ヒートポンプ配管：配管長5m以下の場合、厚み10mm以上で各水道事業者指定の厚み
配管長5~15m以下の場合、厚み20mm以上で各水道事業者指定の厚み
- 空気チューブ：10mm(当社別売部品、**■**タイプのみ)
- その他の配管厚み：10mm以上で各水道事業者指定の厚み

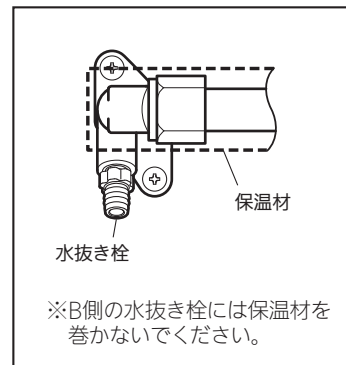
- 保温材がぬれないよう、必ずテープなどで防水処置をしてください。
- ヒートポンプ配管の接続口(A側、B側)も保温工事をしてください。

貯湯ユニット



注. **■**タイプ(ホットあわー)で説明しています。

ヒートポンプユニット



万一凍結が発生した場合

各種外部配管に対して、据付工事説明書に記載の凍結防止及び保温工事を実施してください。
すでに十分な凍結防止・保温工事がなされている場合は、次の手順で解氷してください。

【解氷方法】

下記の事項に留意してください。

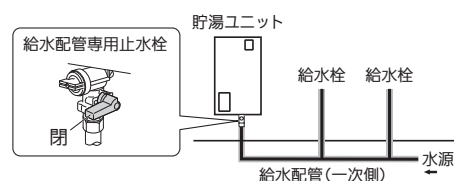
- ①該当箇所周辺を家庭用ヘアードライヤー(700~1400W)で解氷してください。
- ②再通水、再通電及びエラー解除後に、試運転を実施してください。

【お願い】

- 作業の安全性を確保するため、処置前に次のことを実施してください。
 - ・必ず、200V電源ブレーカーと貯湯ユニットの電源レバーを「切」にしてください。
 - ・給水配管専用止水栓を閉じてください。
- 各種部品は防水仕様ではありません。水もしくは湯を掛けることによる解氷は絶対にしないでください。
- 同じ箇所に長時間温風を当てずにまんべんなく暖めてください。部品表面が高温(60℃以上)にならないようにするためです。
- 解氷すると凍結破損箇所から水が出る場合があります。タオルを当てるなどの処置をしてください。

配管の水漏れ確認について

- 給水配管以外の配管接続部の水漏れを確認するために機器内に水を入れた場合は、給水後に必ず機器内の水を抜いてください。
- 一次側配管の水漏れを確認する場合は、給水配管専用止水栓が閉じていることを確認してください。



●冬期据付後の注意点

4.施工後すぐにお客様へ引き渡さない場合(すぐに使用しない場合)

施工後や試運転完了後は、以下の手順で機器内の水を排水してください。
給湯機の電源を切るときは、機器内の水を抜いてください。水を抜かないと、凍結により機器が破損し水漏れすることがあります。ただし、厳寒期は排水中に凍結し、機器が破損する場合があります。外気温が0℃以上の環境で排水・水抜きをしてください。0℃未満の環境では満水状態で電源を入れたままにしておいてください。

★水抜き手順は下記HPの「よくあるご質問 動画集」で確認いただけます。
<http://www.mitsubishielectric.co.jp/ldg/faqmovie/index.html?category=srt>



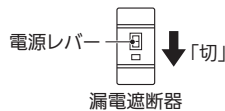
手順

①熱源ポンプのエア抜き運転をする

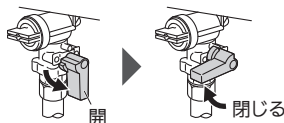
台所リモコン(給湯専用リモコン)の選択スイッチ「▲」「▼」を同時に3秒以上押す



②約40秒エア抜きした後、エア抜き中に漏電遮断器の電源レバーを「切」にする



③給水配管専用止水栓を閉じる



④逃し弁のレバーを手前に起こす



⑤貯湯ユニットの排水栓を開く

タンク内の水が抜けるまでに約80分(薄型タイプは約140分)かかります。



⑥ヒートポンプユニット内の水を抜く

- ①B側水抜き栓を開く
- ②A側水抜き栓を開く

水が出なくなるまで開けて続けてください

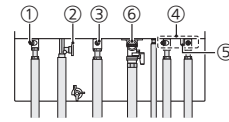


⑦貯湯ユニットの水抜き栓、非常用取水栓を開く

- 排水時はやけどに注意してください。給湯配管水抜き栓とヒートポンプ配管水抜き栓①②からは熱いお湯が出る場合があります。
- 水抜き栓、非常用取水栓から水が出なくなるまで開けてください。

〈薄型タイプ以外〉

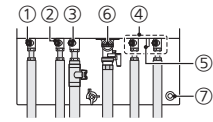
図は■タイプで説明しています。



①	ヒートポンプB配管水抜き栓
②	非常用取水栓 [※] (ヒートポンプA配管水抜き栓)
③	給湯配管水抜き栓
④	ふろ配管水抜き栓
⑤	ふろ循環ポンプ水抜き栓 (■タイプは1カ所、□タイプは無し)
⑥	ふろ循環ポンプ水抜き栓 (■□□タイプのみ)
⑦	給水ストレーナ

注.SRT-W306Dは、①と同じ形状です。

〈薄型タイプ〉



①	ヒートポンプB配管水抜き栓
②	ヒートポンプA配管水抜き栓
③	給湯配管水抜き栓
④	ふろ配管水抜き栓
⑤	ふろ循環ポンプ水抜き栓
⑥	給水ストレーナ
⑦	非常用取水栓

⑧給水ストレーナを外し、給水配管の水を抜く

- 配管内の残水が飛び散る場合がありますので、ご注意ください。

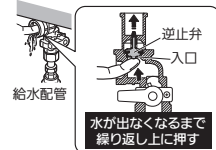
〈SRT-W306D以外〉



SRT-W306Dは給水ストレーナの形状が異なります。

SRT-W306Dのみ

- 給水ストレーナを外した後、水が出なくなるまで繰り返し逆止弁を上を押してください。
- 指で逆止弁の入口をふさがないように押してください。ふさぐと水が抜けません。



⑨水抜き完了後、1時間程度放置してから、手順4～8で開いた水抜き栓、排水栓、非常用取水栓、逃し弁のレバー、給水ストレーナを戻す(閉じる)

お願い

- 排水栓は必ず通常使用位置にしてお引渡してください。メンテナンス位置は、使用しないでください。

通常使用位置	排水位置	メンテナンス位置
閉じる	開く	閉じる